

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26770090

研究課題名(和文) 近世後期における歌舞伎役者の信州川路興行に関する調査・研究

研究課題名(英文) Study of Kabuki Performances in the Shinshu (Nagano) village of Kawaji, in the Late Edo Period

研究代表者

木村 涼 (KIMURA, RYO)

早稲田大学・坪内博士記念演劇博物館・招聘研究員

研究者番号：70546150

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：歌舞伎役者の地方興行についての研究が、十分に進展しているとは言えない状況の中、本研究は、信州川路村庄屋所蔵の史資料を中心に、歌舞伎役者の信州川路興行の究明を目指したものである。特に、江戸歌舞伎役者の興行を中心に検討、考察して、地域社会における役者と芝居の役割、芝居興行の準備段階から終了までの主催者側の動向、観客の意識など川路興行の全体像を明らかにした。これは、歌舞伎役者の地方興行の一つの事例であるが、その構造全般の解明に向けて一歩進めることができた。

研究成果の概要(英文)： Research into rural Kabuki performance has not yet attracted the attention it deserves. The present study focuses on Kabuki performances in the village of Kawaji (in present-day Nagano), using historical materials handed down by village leaders. Looking in particular at Edo-based players performing in Kawaji, the study presents a broad view that elucidates the functions of actors and performances within rural society, the activities of organizers from preparation to completion, and the attitudes of audiences. Although the study looks only at a single, limited area, it is an important step toward working out a wider picture of the general structure of rural Kabuki activity.

研究分野：日本近世文化史

キーワード：歌舞伎役者 信州川路村 地方興行 地域社会

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 江戸時代も文化・文政期以降は、歌舞伎役者の三都以外の地域での地方興行が盛んになっていく。しかし、歌舞伎役者の地方興行についての研究は、依然として十分に進展しているとは言えない状況であった。

(2) 歌舞伎役者の地方興行に関する研究が十分に進んでいるとは言えない理由について次の事が考えられた。例えば、芝居小屋が類焼したとの理由で、歌舞伎役者が地方興行に赴いたという資料については若干見出せるが、興行開催の該当地域に残存してであろう資料の調査がこれまでほとんど手つかずの状態であり、地域ごとにも歌舞伎役者の地方興行の資料目録さえも作成されていない。どの地域にどれだけの役者が来て、どんな芝居を上演したのかさえ体系的に捉えられていない状況であった。

(3) そこで、七代目市川團十郎(=五代目市川海老蔵)の地方興行究明のために、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館へ寄託・寄贈された信州川路村(現長野県飯田市)の資料群を体系的に整理していたところ、五代目海老蔵をはじめ、それ以外の江戸歌舞伎役者も川路村で興行していることが確認され、資史料もまとまって存在することが予想された。すでに、該当地域には海老蔵のライバル三代目尾上菊五郎も来演していることは指摘されている。しかし、五代目海老蔵、三代目菊五郎の興行は、指摘に留まっている感があり、具体的な資史料分析はこれまでなされてこなかった。

(4) 演劇博物館に寄託・寄贈された資料群だけでも膨大であるが、個人宅や各地域の諸機関には、まだ資料が眠っている可能性が高いと思われる。これらも調査に加えていけば、五代目海老蔵を始めとする江戸歌舞伎の大名題クラスの歌舞伎役者の地方興行の構造が解明できるのではないかと期待が持てた。したがって、まず資史料が豊富に残されている近世後期の歌舞伎役者の信州川路興行を究明しようと思いついた。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、近世後期、信州川路村にお

いて、庄屋主導で開催された大名題の歌舞伎役者の芝居興行を解明することを目的とした。

(2) 信州川路村の庄屋が所蔵している資料群を中心として調査し、五代目海老蔵及び大名題の歌舞伎役者の地方興行での上演形態、契約内容をはじめとする興行実現へのプロセス、興行収支など具体的な構造を明らかにすることを目指した。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究は、三都の歌舞伎役者の地方における演劇活動について、従来の芝居番付や台帳、役者評判記などの資料も参照しながら、信州川路村の庄屋に所蔵されている資史料を中心として関連資料所蔵機関に残されている興行関係資料及び信州川路村における藩政資料や観劇記録も合わせて検討し、川路興行の興行形態及び当該地域における人々との結びつきを明らかにしていくという手法をとった。

(2) 具体的には、まず演劇博物館に寄託・寄贈された資料群の目録を作成し、複写して整理した。次に該当地域の諸機関を訪れ関連資料を複写し整理した。そこから、信州川路村という地域社会における役者と芝居の役割、芝居興行の実現にあたっての興行主側の動向、観客・最員の意識など川路興行の全体像の把握を試みた。また、同じ川路村でも役者によつての芝居興行における相違点・類似点も念頭に置いて作業した。

## 4. 研究成果

(1) 近世後期において信州川路村の庄屋の主導で行われた歌舞伎役者の芝居興行の実態を探るべく、関連資料が所蔵されている諸機関を『自治体史』などをはじめとする『資料目録』で網羅的に把握した。また、芝居興行の時期としては、信州川路村の庄屋に残されている資史料を鑑み19世紀を中心として考察し、庄屋が所蔵している芝居興行関連資料についてはその目録を作成することができた。

(2) 一番多くの史料がまとまって残っている天保12年(1841)の五代目海老蔵の川路

興行に限ってみれば、『天保十二丑八月 花留帳』、『天保十二丑八月 芝居宿割』、『天保十二丑八月 客留帳』、『天保十二丑八月 人足帳』、『天保十二年丑文月大吉日 芝居大宝恵』、『天保十二丑八月吉日 市川芝居殿 払物書抜帳』、『天保十二丑八月 木戸玉』、『天保十二年丑八月 芝居一段雑色帳』、『天保十二丑八月 場方帳』、『天保十二年 場方帳裏表忠臣蔵ヨリ』、『天保十二年丑年十二月日 芝居勘定役残物調帳 大吉』、『天保十二年丑ノ八月日 市川 芝居払方差引帳』、『天保十二年丑八月吉日 場方書抜帳』、『天保十二年丑八月壽日 木戸諸勘定帳』、『天保十二年丑八月日 市川 芝居諸入用調帳』と、これだけ詳細なものが存在していることがわかり、これらから当興行の全貌が把握できた。

(3) 以上の史料から分かったことを簡単に記していく。海老蔵は、7月24日から8月20日まで庄屋に逗留した。総勢57人の大一座を組んだ興行は、8月2日～14日(4日、5日、10日の雨天中止を除く)の10日間開催した。総入場者数は6,379人で、一座は320両で契約し、役者の給金として300両が計上され、海老蔵が200両、一座のその他の人々が100両得ていたことが知れた。収入約272両、支出約504両であった。興行は大入り続きで大評判であったが経費が嵩んで、結局230両程の損金を出した。そうすると、川路村の庄屋をはじめとする有力者8人が損金を負い、川路村庄屋はそのうちのおよそ4割5分を負担していたことが確認できた。海老蔵は、8月20日に庄屋宅を出立して天竜川を下ってこの地を去った。

(4) 川路村の庄屋には五代目海老蔵が興行期間、宿泊して世話になっていたこともあり、関係資料が多く残されていた。文書史料だけではなく、茶道具や屏風、浴衣なども保管されている。また、海老蔵は、天保改革期、川路興行が始まる直前、甲州亀屋座に出演していたことが確認できた。もちろん、亀屋座に出演していた全ての役者が川路に向かったわけではない。亀屋座の運営を取り仕切る亀屋与兵衛と川路村の芝居興行を主催する川路村庄屋との間にどのような関係があったのかは、現時点では不明だが、地方の芝居興行のネットワークの一端を解明できる可能

性も出てきた。地方興行のネットワークがあるとすれば、地方興行の興行主の連携構造を明らかにできる。地方興行のネットワークを追究することは、今後究明すべき重要な課題である。

(5) 川路村庄屋所蔵の資史料群の中に、江戸歌舞伎役者の他に、京・大坂の役者が、信州川路村で興行をした時に上演したとみられる芝居の台本などが存在していた。残されている台本を分析すれば、地方興行で上演される演目の傾向も明らかになることが予想され、三都の役者の地方興行研究がより一層充実し、前進すると思われる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①木村 涼、五代目市川海老蔵、下総を旅する、まほら、査読無、No. 86、2016、pp. 40-41

②木村 涼、絆 市川團十郎と成田山新勝寺、智光、査読無、10号、2015、pp. 16-19

[学会発表] (計4件)

①木村 涼、絆 市川團十郎と成田山新勝寺、「共生き成田山」成田山暁天講座(招待講演)、2015年7月19日、「成田山新勝寺(千葉県・成田市)」

②木村 涼、「江戸三座永続願い」一件と歌舞伎役者の経済基盤、社会経済史学会第84回全国大会、2015年5月30日、「早稲田大学(東京都・新宿区)」

③木村 涼、シンポジウムテーマ「芸能の発展と地域社会」、社会経済史学会中国四国部会、2014年11月30日、「徳島市シビックセンター(徳島県・徳島市)」

④木村 涼、七代目市川團十郎と江戸社会、日本風俗史学会、2014年6月14日、「大妻女子大学(東京都・千代田区)」

[図書] (計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

木村 涼 (KIMURA, Ryo)

早稲田大学・坪内博士記念演劇博物館・

招聘研究員

研究者番号：70546150

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：